



健やかな成長はみんなの願い 仲間が増えたら輪が広がった



やまおか しょういちろう
山岡 昭一郎 さん
中野区沼袋保育園 保育士
1級こども環境管理士
東京都

たそです。また、単発の予定だった研修会を、より効果上がるよう、2回、3回と続けてもらっているとのこと。子どもたちの健やかな成長を思う気持ち、保育士も保護者も区の方々も、みな同じですね。回を重ね、受講者にも変化が。「質問の内容がより具体的になってきました。そして、これまでは花や野菜の栽培に関する質問が多かったのですが、自然や環境、ビオトープに関するあれこれに。意識が変わってきたのを実感しています」

人口過密地域の狭小スペース 加えて、公立ならではの…

ところでここ中野区は、人口の集中する東京にあつて随一の人口過密地域。どの園もスペース的にかなり厳しいものが。しかし、区内には園庭ビオトープに挑戦する園が徐々に増えているそうです。プランターを駆使するなどできることで工夫を凝らし、子どもと野生の生きものとの接点を少しでも持たせたいと願う保育士が多いのです。

山岡さんの呼び掛けは着実に広がっているようですが、そのように人材の育成に力を入れるのはなぜですか？「よく言われるように、公立には異動があるため活動を継続するのが難しいの

です。そのためなかなか取り掛かりにくいという事情があるのですが、人が異動しても活動は引き継がれていくよう、課題解決のための人づくりです」

園庭ビオトープの取り組みは、やはり始めたら大人も子ども夢中です。しかし、中心人物が異動などで去ってしまうとダメになってしまうという例もまま見られます。実は、『誰もがビオトープのことを知っていて、人の入れ替わりがあっても大丈夫』という体制づくりが活動の肝。仲間が増えていくということとは、とても重要なことなのです。

取り組みが実を結びつつ 人づくりは園児を通して家庭にも

そして山岡さんは、もちろんご自身の身近なところでも。「区の研修会とは別に、自分の園では職員会議の時間を利用して、生きものに関する勉強会などを定期的に実施しています」また、自然のことを知ってもらいたい、目を向けて欲しいという思いから、隔月刊のおたより『いきものがかり』を発行。園庭の自然に関するニュースやクイズ、おすすめスポットの紹介など、なるべく多くの方が興味を持ち、楽しく、ためになる紙面を心掛けています。

着任して5年。保護者や職員に情報

保育士を目指す学生さんにひと言

「環境の時代の『新しいせんせい』になっていくためには、こども環境管理士の知識が必要だと思っています。研修会でも言っているのですが、大人が興味を持つことが、子どもが興味を持つことにつながっていきます。そういうきっかけを与えられる保育士になってもらいたいと思います」



おたより『いきものがかり』。今月はどんなお話かな？生きものがより身近になります。



太公望！趣味を通じて子どもや自然の置かれている現状を感じ、より深く知りたいとこども環境管理士に。

子どもと自然の触れ合いといえは、周囲の豊かなさや園庭の広さなど、都市部では少し難しいのではというイメージがあります。ましてや異動のともなう公立の保育園とあつては継続性に難が…。そのような逆境とも言えるなかで見えてきたのは、仲間づくりの大切さです。

区内の保育士が対象の研修会 1級こども環境管理士として

もともとは同僚が新聞で『こども環境管理士』を知り、誘われて受験したという山岡さん。区内の保育士を対象としたスキルアップ研修の講師を受け持ち、今年で3年目。きっかけは、有資格者の名簿『こども環境管理士データベース』※に登録したことでした。「1級をもっているということで、区の職員から声がかかりました」テーマは子どもと自然環境。公立・私立を問わず区内の保育士が参加します。同じく1級を持つ同僚と、それぞれ得意分野を活かしつつ講義を受け持っています。

研修会を経て、周囲の反応はどうですか？「まず、区役所が理解してくれるようになったと思います」昨年、一昨年と研修会は11月に開催されていたのですが、『こども環境管理士』の筆記試験も毎年11月。なんと、受講してせっかく受験する気になった方々が申し込めなかったのですが、それを考慮し、開催時期を9月に前倒ししてくれ

※『こども環境管理士データベース』は、こども環境管理士の資格を持つ方（ただし掲載を希望される方のみ）の名簿です。こども環境管理士資格試験の公式ページ (<http://www.ecosys.or.jp/activity/kids/>) でどなたでもご覧いただけます。



いよいよ池づくりがスタート。こうした取り組みを通じて仲間の輪が広がっていきます。もちろん、子どもたちにとっては貴重な体験に。



区を飛び出し、『三鷹市星と森と絵本の家』にて池のビオトープづくりをアドバイス。天文台の森の中で、宇宙を感じながら身近な自然を学びます。